



## 平成26年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年5月9日  
上場取引所 東

上場会社名 光村印刷株式会社  
コード番号 7916 URL <http://www.mitsumura.co.jp/>  
代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 二瓶 春樹  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理本部長 (氏名) 嶋山 芳夫  
定時株主総会開催予定日 平成26年6月27日 配当支払開始予定日  
有価証券報告書提出予定日 平成26年6月27日  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

TEL 03-3492-1181  
平成26年6月30日

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期の連結業績(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期	18,679	0.9	353	△31.5	341	△34.6	225	△37.3
25年3月期	18,511	0.1	515	△39.0	522	△37.8	359	△36.9

(注) 包括利益 26年3月期 595百万円 (△37.0%) 25年3月期 944百万円 (56.9%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
26年3月期	7.09	—	1.3	1.2	1.9
25年3月期	11.20	—	2.1	1.8	2.8

(参考) 持分法投資損益 26年3月期 一百万円 25年3月期 一百万円

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期	27,606	17,728	63.7	554.12
25年3月期	28,192	17,458	61.5	545.86

(参考) 自己資本 26年3月期 17,588百万円 25年3月期 17,327百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
26年3月期	929	△459	△932	1,290
25年3月期	1,537	△763	△1,323	1,753

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
25年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00	317	89.3	1.9
26年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00	317	141.0	1.8
27年3月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00		122.1	

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	8,800	△3.7	140	△47.5	140	△45.7	80	△39.2	2.52
通期	18,400	△1.5	450	27.4	440	28.8	260	15.5	8.19

※ 注記事項

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)： 無  
 新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期	33,634,203 株	25年3月期	33,634,203 株
② 期末自己株式数	26年3月期	1,893,616 株	25年3月期	1,891,176 株
③ 期中平均株式数	26年3月期	31,741,479 株	25年3月期	32,076,370 株

(参考)個別業績の概要

1. 平成26年3月期の個別業績(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期	16,158	1.0	185	△52.8	222	△43.9	169	△46.0
25年3月期	15,993	0.8	392	△48.3	396	△45.8	313	△23.7

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後1株当たり当期純利益	
	円 銭		円 銭	
26年3月期	5.34		—	
25年3月期	9.78		—	

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭		
26年3月期	25,404		16,327		64.3	514.39		
25年3月期	26,284		16,128		61.4	508.09		

(参考) 自己資本 26年3月期 16,327百万円 25年3月期 16,128百万円

2. 平成27年3月期の個別業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
第2四半期(累計)	7,600	△3.7	110	△41.3	70	△33.0	2.21	
通期	15,900	△1.6	350	57.4	200	18.1	6.30	

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的だと判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、決算短信(添付資料)3ページ「経営成績に関する分析」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	3
2. 企業集団の状況	4
3. 経営方針	5
(1) 会社の経営の基本方針	5
(2) 中長期的な経営戦略	5
(3) コンプライアンス並びに内部統制体制及び内部監査の充実	5
4. 連結財務諸表	7
(1) 連結貸借対照表	7
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	9
(3) 連結株主資本等変動計算書	11
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	13
(5) 継続企業の前提に関する注記	15
(6) 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項	15
(7) 連結財務諸表に関する注記事項	18
(セグメント情報等)	18
(1株当たり情報)	19
(重要な後発事象)	19

## 1. 経営成績・財政状態に関する分析

### (1) 経営成績に関する分析

当連結会計年度におけるわが国の経済は、政府による経済対策及び金融緩和策の効果が下支えする中で、輸出産業を中心とする企業収益の改善や雇用情勢の持ち直しなど、緩やかな回復傾向で推移しました。

しかしながら、印刷業界におきましては、得意先の経費削減による印刷需要の減少、受注競争の激化による単価下落、出版市場の縮小等に加え、用紙価格の引き上げや電気料金の値上げ等もあり、経営環境は依然として厳しい状況が続きました。

当社はこのような情勢のもと、グループの総力を挙げて営業強化施策の実行に努める一方、プリプレス部門の統合や生産管理機能の一元化によるコスト削減、品質の維持向上、納期の短縮に取り組みました。また、当社の将来に向けた技術基盤の確立のため技術本部を発足させ、活動を開始しました。

当連結会計年度の売上高は 186 億 79 百万円（前年同期比 0.9%増）となりましたが、損益面では、営業利益は 3 億 53 百万円（前年同期比 31.5%減）、経常利益は 3 億 41 百万円（前年同期比 34.6%減）、当期純利益は 2 億 25 百万円（前年同期比 37.3%減）となりました。

セグメント別の業績を示すと次のとおりです。

#### ① 印刷事業

新聞関連の売上減少はありましたが、宣伝用印刷物や伝票類の増加があり、売上高は 170 億 18 百万円（前年同期比 2.4%増）、セグメント利益（営業利益）は 4 億 99 百万円（前年同期比 42.7%増）となりました。

#### ② 電子部品製造事業

売上高は 14 億 62 百万円（前年同期比 12.2%減）となり、タッチパネル製品の得意先の生産調整もあり、セグメント損失（営業損失）は 3 億 96 百万円（前年同期は 77 百万円の損失）となりました。

#### ③ 不動産賃貸事業

売上高は 3 億 51 百万円（前年同期比 2.1%減）、セグメント利益（営業利益）は 2 億 49 百万円（前年同期比 3.1%増）となりました。

今後の見通しにつきましては、明るさは増していますが、消費税引き上げによる一時的な需要の落ち込みが予想されており、原材料価格の高騰もあり、依然として景気は不透明感が継続するものと予想されます。

印刷業界におきましては、IT化や企業のコスト削減策による印刷需要減退や価格競争の激化に加え、用紙等の材料の値上げが懸念され、市場環境は引き続き厳しい状況が続くものと思われます。

このような環境のもと、当社グループといたしましては、営業強化施策を着実に実行するとともに、全社に関わる利益確保のための手段の構築と、そのための仕組みづくり、将来に向けた全社施策を実行し、経営基盤の強化と業績向上に努めてまいります。

次期の連結業績見通しにつきましては、売上高 184 億円、営業利益 4 億 50 百万円、経常利益 4 億 40 百万円、当期純利益 2 億 60 百万円を見込んでおります。

## (2) 財政状態に関する分析

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ 5 億 86 百万円減少の 276 億 6 百万円となりました。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ 8 億 55 百万円減少の 98 億 77 百万円となりました。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ 2 億 69 百万円増加の 177 億 28 百万円となりました。

### ② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ 4 億 62 百万円減少し、当連結会計年度末には 12 億 90 百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、9 億 29 百万円の収入超過となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、4 億 59 百万円の支出超過となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、9 億 32 百万円の支出超過となりました。

## (3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は株主の皆様への利益還元を重要な課題と位置付けております。配当につきましては、業績に裏付けされた安定的な配当を行なうことを基本としつつ、合わせて配当性向、企業体質の一層の強化と今後の事業展開に備えるための内部留保の充実などを勘案して決定する方針を採っております。

以上の方針に基づき、期末配当金につきましては、1株につき 10円とさせていただきます。また、次期の配当金につきましては、1株につき 10円を見込んでおります。

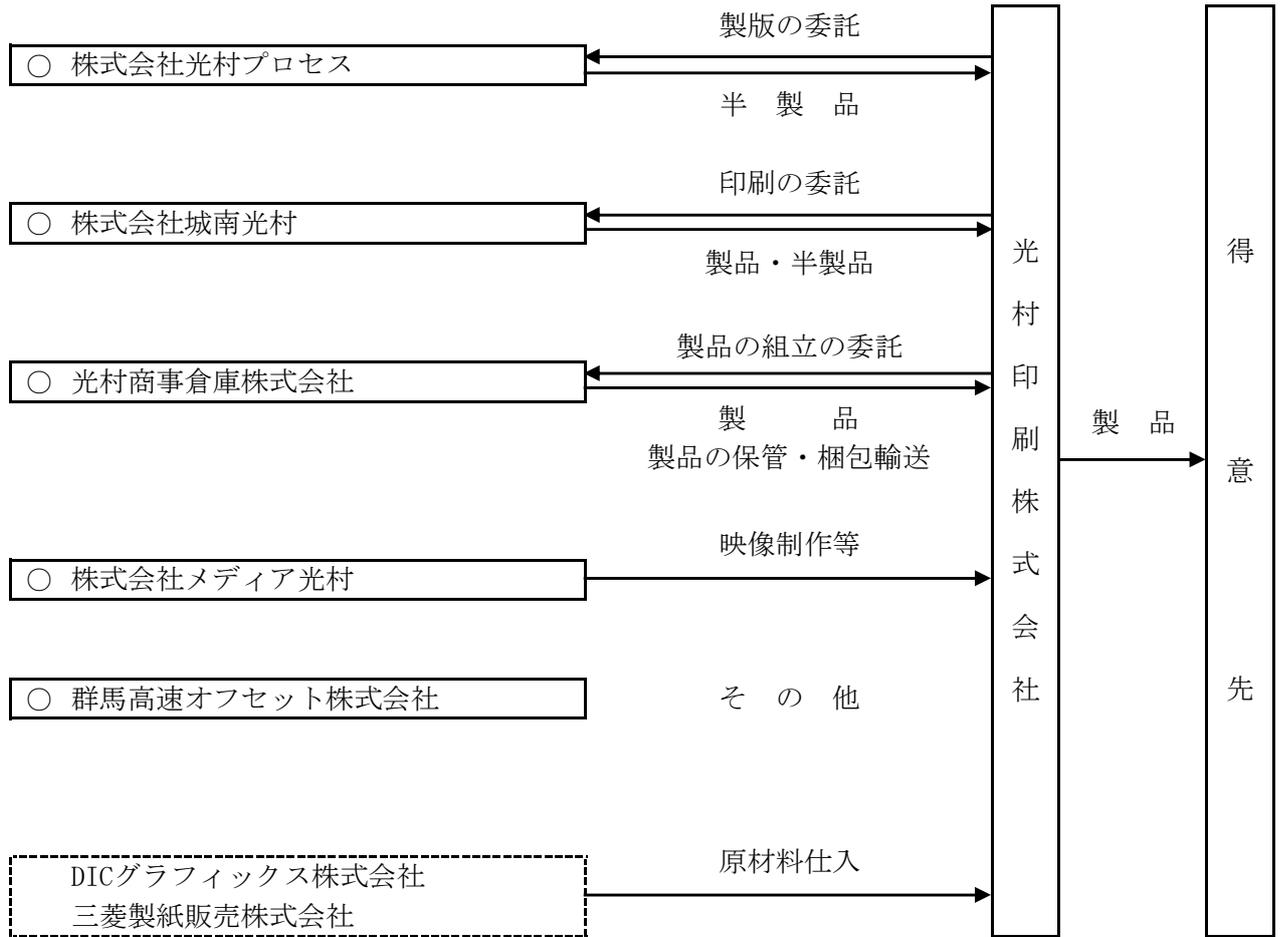
## 2. 企業集団の状況

当社グループの行う事業は印刷事業（一般印刷・情報、新聞印刷他）、電子部品製造事業（タッチパネル製品、エレクトロニクス製品）、不動産賃貸事業であり、当社グループは当社及び子会社5社で構成されています。

印刷事業は主として製版・印刷・製本及びこれらに関連する付帯事業を中心として事業を行い、当社を中心として製版、印刷、製本等の生産を相互に連携しつつ行っています。

また当社と関連当事者（関係会社を除く）の間には、原材料仕入が行われています。

以上の企業集団等について図示すると次のとおりです。



- 連結子会社
- 関連当事者

### 3. 経営方針

#### (1) 会社の経営の基本方針

未来を視野に入れて、印刷技術の応用による新規分野への展開・情報技術を積極的に取り入れます。さらに、株主・顧客・投資家・地域社会などステークホルダーとのさらなる信頼関係を築き、多様化・高度化するあらゆる市場ニーズに対し効率的な営業活動、生産活動を展開して、企業としての社会的責任を全うします。また、信頼性のある財務報告の作成に対するリスクの軽減に対処した統制活動を実行します。

- ① 法令遵守に基づく適正な企業活動を通じて、環境保全と地域社会の発展に取り組んでいく。
- ② 株主・顧客・社員は当社を支える基盤であり、適正な利潤の追求により、企業価値の向上に取り組んでいく。
- ③ 当社は先端情報産業として、常に最高の技術を発揮し、品質の向上に取り組んでいく。
- ④ 人間中心、実力主義に基づく経営で、自由な発想で考え、「創意と工夫」「改革と成長」をモットーに安定成長を目指していく。

#### (2) 中長期的な経営戦略

当社グループの経営戦略及び対処すべき課題といたしましては、引き続き徹底した経営効率化の努力を重ね、強固な経営基盤の確立と業績向上に努めてまいります。

印刷事業につきましては、引き続き取引先と、より強固な信頼関係を築き上げてまいります。営業部門におきましては、営業体制の強化を図り、新規得意先の開拓に努めます。また、クロスメディア部を新設し、受注単価下落の現状に抗していくため、川上業務での利益確保を図っていきます。生産部門におきましては、生産原価の低減に取り組んでまいります。

電子部品製造事業につきましては、安定的な受注の確保に努めるとともに、生産効率の改善、固定費の削減によりコストダウンを図り、収益の改善に努めてまいります。

研究開発部門につきましては、従来技術を生かした印刷製品の開発から電子製品への印刷技術応用等、幅広い開発に取り組んでまいります。

なお、地球環境への配慮と電力供給確保への寄与及び保有資産の有効活用を図るため、那須工場（栃木県大田原市）の敷地の一部を利用した太陽光発電事業を平成26年11月に開始する予定です。

#### (3) コンプライアンス並びに内部統制体制及び内部監査の充実

コンプライアンスに関する取り組みを推進する部署として内部監査室を設置し、コンプライアンスの徹底に努めております。

内部統制体制の推進については、内部監査室が担当し、内部統制体制の充実に努めるとともに、内部監査を行うことにより、各業務執行部門における業務の遂行状況や各種規程の遵守状況などを合法性と合理性の観点から監査することにより、企業倫理・遵法精神の浸透に取り組んでおります。

また、内部統制整備計画に沿って策定した販売、購買等の業務記述書、業務フロー、リスク・コントロール・マトリックスに基づき、内部監査室が各業務プロセスにおける内部統制の評価を実施しており、現時点において重要な不備は発見されておりません。

さらに、公益通報者保護につきましては、社内の他に社外窓口として弁護士へのホットラインを設置した「コンプライアンス相談・通報窓口」を設け運用しております。

## 4. 連結財務諸表

## (1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,176,297	2,164,481
受取手形及び売掛金	2,939,041	2,701,542
製品	495,378	524,941
仕掛品	474,261	579,933
原材料及び貯蔵品	137,313	128,380
繰延税金資産	100,016	92,454
その他	207,193	135,339
貸倒引当金	△1,750	△1,690
流動資産合計	7,527,752	6,325,383
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	33,443,527	33,485,285
減価償却累計額	△25,220,279	△25,640,605
建物及び構築物(純額)	8,223,247	7,844,679
機械装置及び運搬具	19,258,806	19,459,717
減価償却累計額	△17,188,531	△16,711,665
機械装置及び運搬具(純額)	2,070,275	2,748,052
工具、器具及び備品	1,475,015	1,480,674
減価償却累計額	△1,386,941	△1,382,211
工具、器具及び備品(純額)	88,073	98,463
土地	2,953,630	2,945,201
リース資産	4,196,599	4,446,481
減価償却累計額	△2,049,227	△2,426,642
リース資産(純額)	2,147,372	2,019,838
建設仮勘定	186,400	—
有形固定資産合計	15,668,999	15,656,235
無形固定資産		
その他	11,320	28,358
無形固定資産合計	11,320	28,358
投資その他の資産		
投資有価証券	4,377,799	4,758,327
繰延税金資産	72,371	70,706
前払年金費用	329,516	—
退職給付に係る資産	—	573,103
その他	309,688	297,973
貸倒引当金	△105,345	△104,043
投資その他の資産合計	4,984,029	5,596,066
固定資産合計	20,664,349	21,280,660
資産合計	28,192,101	27,606,043

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,823,562	2,004,175
短期借入金	3,130,000	3,155,000
リース債務	612,536	684,114
未払費用	400,775	339,061
未払法人税等	52,537	66,002
賞与引当金	180,743	178,156
その他	618,794	314,905
流動負債合計	7,818,951	6,741,416
固定負債		
リース債務	1,692,682	1,495,838
退職給付引当金	725,118	—
役員退職慰労引当金	34,709	29,873
退職給付に係る負債	—	972,753
負ののれん	11,858	2,371
繰延税金負債	118,814	360,256
その他	331,025	274,817
固定負債合計	2,914,207	3,135,910
負債合計	10,733,159	9,877,327
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	5,607,886	5,607,886
資本剰余金	4,449,556	4,449,556
利益剰余金	7,159,740	7,067,501
自己株式	△712,167	△712,815
株主資本合計	16,505,015	16,412,128
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	822,257	1,180,372
退職給付に係る調整累計額	—	△4,405
その他の包括利益累計額合計	822,257	1,175,966
少数株主持分	131,669	140,621
純資産合計	17,458,942	17,728,716
負債純資産合計	28,192,101	27,606,043

## (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

## 連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
売上高	18,511,337	18,679,530
売上原価	15,413,797	15,708,946
売上総利益	3,097,539	2,970,584
販売費及び一般管理費	2,582,077	2,617,347
営業利益	515,462	353,236
営業外収益		
受取利息	1,837	1,254
受取配当金	68,011	73,713
受取家賃	16,789	16,092
負ののれん償却額	9,486	9,486
その他	55,310	16,581
営業外収益合計	151,436	117,127
営業外費用		
支払利息	93,745	89,789
その他	50,859	38,876
営業外費用合計	144,605	128,665
経常利益	522,293	341,698
特別利益		
投資有価証券売却益	47,551	96,775
特別利益合計	47,551	96,775
特別損失		
固定資産除却損	25,542	38,376
減損損失	3,105	—
移転関連費用	17,563	—
固定資産売却損	—	29,628
特別損失合計	46,211	68,005
税金等調整前当期純利益	523,633	370,467
法人税、住民税及び事業税	63,600	71,450
法人税等調整額	85,495	62,074
法人税等合計	149,095	133,524
少数株主損益調整前当期純利益	374,537	236,943
少数株主利益	15,190	11,752
当期純利益	359,346	225,191

## 連結包括利益計算書

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	374,537	236,943
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	569,728	358,114
その他の包括利益合計	569,728	358,114
包括利益	944,266	595,058
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	929,075	583,305
少数株主に係る包括利益	15,190	11,752

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,607,886	4,449,556	7,186,110	△606,538	16,637,015
当期変動額					
剰余金の配当			△385,717		△385,717
当期純利益			359,346		359,346
自己株式の取得				△105,629	△105,629
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	△26,370	△105,629	△132,000
当期末残高	5,607,886	4,449,556	7,159,740	△712,167	16,505,015

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	252,528	—	252,528	119,278	17,008,823
当期変動額					
剰余金の配当					△385,717
当期純利益					359,346
自己株式の取得					△105,629
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	569,728	—	569,728	12,390	582,119
当期変動額合計	569,728	—	569,728	12,390	450,119
当期末残高	822,257	—	822,257	131,669	17,458,942

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,607,886	4,449,556	7,159,740	△712,167	16,505,015
当期変動額					
剰余金の配当			△317,430		△317,430
当期純利益			225,191		225,191
自己株式の取得				△648	△648
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	△92,239	△648	△92,887
当期末残高	5,607,886	4,449,556	7,067,501	△712,815	16,412,128

	その他の包括利益累計額			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	822,257	—	822,257	131,669	17,458,942
当期変動額					
剰余金の配当					△317,430
当期純利益					225,191
自己株式の取得					△648
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	358,114	△4,405	353,708	8,952	362,661
当期変動額合計	358,114	△4,405	353,708	8,952	269,773
当期末残高	1,180,372	△4,405	1,175,966	140,621	17,728,716

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	523,633	370,467
減価償却費	1,437,164	1,379,018
減損損失	3,105	-
負ののれん償却額	△9,486	△9,486
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△9,461	△1,361
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3,629	△2,586
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	54,035	-
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△220,847	△4,835
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	-	61,242
受取利息及び受取配当金	△69,849	△74,967
支払利息	93,745	89,789
固定資産除却損	25,542	38,376
固定資産売却損益 (△は益)	-	29,628
投資有価証券売却損益 (△は益)	△47,551	△96,775
売上債権の増減額 (△は増加)	451,815	237,550
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△7,733	△126,301
仕入債務の増減額 (△は減少)	△115,934	△819,387
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△41,194	△5,137
未収消費税等の増減額 (△は増加)	10,655	△51,021
前払年金費用の増減額 (△は増加)	△18,102	-
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	-	△63,862
その他	△43,832	△57,918
小計	2,012,073	892,430
利息及び配当金の受取額	69,844	74,974
利息の支払額	△96,231	△87,758
法人税等の支払額	△448,397	△74,307
法人税等の還付額	-	124,411
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,537,289</b>	<b>929,751</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△723,176	549,542
有形固定資産の取得による支出	△307,759	△1,333,588
有形固定資産の売却による収入	35,662	38,353
無形固定資産の売却による収入	47,207	-
投資有価証券の取得による支出	△16,586	△16,689
投資有価証券の売却による収入	141,223	281,908
その他	59,751	20,544
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△763,676</b>	<b>△459,928</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	-	25,000
リース債務の返済による支出	△829,976	△636,604
自己株式の取得による支出	△105,629	△648
配当金の支払額	△384,840	△317,044
少数株主への配当金の支払額	△2,800	△2,800
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,323,246	△932,096
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△549,632	△462,273
現金及び現金同等物の期首残高	2,302,760	1,753,127
現金及び現金同等物の期末残高	1,753,127	1,290,853

## (5) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (6) 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

## 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社は、光村商事倉庫株式会社ほか4社であり、非連結子会社はありません。

## 2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用会社はありません。

## 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度末日と連結決算日は一致しています。

## 4. 会計処理基準に関する事項

## (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

- |         |   |
|---------|---|
| ① 有価証券  | <p>その他有価証券<br/>時価のあるもの<br/>決算期末日の市場価格等に基づく時価法にて評価しています。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しています。)</p> <p>時価のないもの<br/>移動平均法による原価法にて評価しています。</p> |
| ② たな卸資産 | <p>製品、仕掛品は主として売価還元法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)、原材料及び貯蔵品は主として先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)にて評価しています。</p>  |

## (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

## ① 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっています。

但し、一部の建物(建物附属設備を除く)及び機械装置は定額法によっています。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物及び構築物 3年～50年

機械装置及び運搬具 3年～15年

## ② 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっています。

なお、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっています。

## ③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引にかかるリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法を採用しています。

なお、リース取引開始日が企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の適用初年度開始前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

## (3) 重要な引当金の計上基準

- |             |   |
|-------------|---|
| ① 貸倒引当金     | 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。 |
| ② 賞与引当金     | 従業員に対して支給する賞与に充当するため、支給見込み額のうち当連結会計年度の負担額を計上しています。                                |
| ③ 役員退職慰労引当金 | 当社グループは、役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しています。                             |

## (4) 退職給付に係る会計処理の方法

- ① 退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。
- ② 数理計算上の差異、過去勤務費用及び会計基準変更時差異の費用処理方法  
会計基準変更時差異(545,916千円)は、15年による按分額を費用処理しています。  
過去勤務費用は、発生年度に全額費用処理しています。  
数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しています。
- ③ 小規模企業等における簡便法の採用  
一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。

## (5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

## 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。

## (会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を当連結会計年度末より適用し(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債(または退職給付に係る資産)として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異及び会計基準変更時差異の未処理額を退職給付に係る負債(または退職給付に係る資産)に計上しました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しています。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る資産が573,103千円、退職給付に係る負債が972,753千円計上されています。また、その他の包括利益累計額が4,405千円減少しています。

5. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない、取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する短期的な投資からなっています。

## (7) 連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前連結会計年度 (自 平成 24 年 4 月 1 日 至 平成 25 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	連結損益計 算書計上額
	印刷	電子部品 製造	不動産賃貸	計		
売上高						
外部顧客への売上 高	16,622,909	1,666,275	222,153	18,511,337	—	18,511,337
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	137,160	137,160	△137,160	—
計	16,622,909	1,666,275	359,314	18,648,498	△137,160	18,511,337
セグメント利益又は 損失 (△)	350,307	△77,332	242,487	515,462	—	515,462

当連結会計年度 (自 平成 25 年 4 月 1 日 至 平成 26 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	連結損益計 算書計上額
	印刷	電子部品 製造	不動産賃貸	計		
売上高						
外部顧客への売上 高	17,018,269	1,462,992	198,268	18,679,530	—	18,679,530
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	153,625	153,625	△153,625	—
計	17,018,269	1,462,992	351,893	18,833,155	△153,625	18,679,530
セグメント利益又は 損失 (△)	499,796	△396,481	249,922	353,236	—	353,236

## (1株当たり情報)

前連結会計年度 〔自平成24年4月1日〕 〔至平成25年3月31日〕		当連結会計年度 〔自平成25年4月1日〕 〔至平成26年3月31日〕	
1株当たり純資産額	545.86円	1株当たり純資産額	554.12円
1株当たり当期純利益	11.20円	1株当たり当期純利益	7.09円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、 潜在株式が存在していないため記載していません。		潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、 潜在株式が存在していないため記載していません。	

(注)1株当たり当期純利益金額の算定基礎は、以下のとおりです。

	前連結会計年度 〔自平成24年4月1日〕 〔至平成25年3月31日〕	当連結会計年度 〔自平成25年4月1日〕 〔至平成26年3月31日〕
当期純利益(千円)	359,346	225,191
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	359,346	225,191
期中平均株式数(千株)	32,076	31,741

(重要な後発事象)

該当事項はありません。